

令和4年度
教職課程

自己点検評価報告書

令和5年3月
環太平洋大学

目次

教職課程認定学部等一覧	1
I 教職課程の現状及び特色	2
II 基準領域ごとの自己点検評価	3
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	6
III 今後の教職課程教育・運営の課題	9
現状基礎データ票	10

教職課程認定学部等一覧

学部学科等の課程

《通学課程》

学部名	学科等名	認定を受けている免許状の種類	
次世代教育学部	子ども発達学科	幼一種免	
	教育経営学科	小学校教育専攻	小一種免
		中高英語教育専攻	中一種免(英語)
			高一種免(英語)
体育学部	体育学科	中一種免(保健体育) 高一種免(保健体育)	

《通信教育課程》

学部名	学科等名	認定を受けている免許状の種類	
次世代教育学部	教育経営学科	初等教育専攻	幼一種免
			小一種免
			特支一種免(知・肢・病)
	中高英語教育専攻	中一種免(英語)	
		高一種免(英語)	
	中高数学教育専攻	中一種免(数学)	
		高一種免(数学)	
	通信教育課程		

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

(1) 大学名:環太平洋大学

(2) 所在地:岡山県岡山市東区瀬戸町観音寺721

(3) 学生数及び教員数(令和4年5月1日現在)

学生数: 評価対象学部 2,084 名/大学全体 3,105 名

教員数: 教職課程科目(教職・教科とも)担当47名/大学全体127名

2 特色

環太平洋大学は、2007年の開学から現代社会の教育的諸問題に対して柔軟に対応できる健全で豊かな人格を備えた教育者・指導者を養成することを目的としている。「挑戦と創造の教育」を建精の精神として掲げ、「教育とスポーツの融合」に挑戦し、学生は文武両道を実践している。本学は、3学部5学科で構成され、そのうち2学部3学科に教職課程を設置し、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の教職課程により教員養成を行ってきた。令和5年度からは、特別支援学校教諭一種普通免許状(知・肢・病)の課程認定を受け、教育現場が求めるより高い専門性と課題解決に向けた実行力を持った教員養成に取り組む予定である。

授業では学校現場体験活動を重視している。教員としての資質の向上を意識する科目として「学校支援ボランティア」「教育実践学」などを開講している。しかし、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の拡大により、体験の機会が減少した。令和4年度から少しずつではあるが、近隣小学校との連携により、体験活動を再開している。また、教育現場で実践経験を積み重ねてきた多くの実務家教員が教職科目の指導にあたり、実践的な教育力・指導力の育成を行っている。

教育課程外におけるキャリア教育の推進体制として、「教職支援室」を設置している。教職支援室では、教職を志望する学生に対し、教員としての使命感や責任感を自覚させるとともに、今日の教員に求められる専門的な知識の習得や指導力の向上を図っている。また、教員採用試験に向けた対策講座を開講し、「教職教養」「模擬授業」「論作文」「実技指導」の対策講座により、採用試験合格にむけた実力を育成し、教学と実践の両面から丁寧な指導と支援を行っている。「時代の求める教育の追求」「教育する者も教育される者も共に成長しながら教え育む(共育)」という基本理念により、教職を目指す学生の夢の実現に全学的に取り組んでいる。

II 基準領域ごとの自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有

[状況説明]

入学時に履修指導と教職課程に関するガイダンスを行い、それ以降は毎年度実施する「他学科受講申し込み・審査(副免許申込)」および教育の基礎的理解に関する科目や教科教育法等での学修において実施している。

例えば、教職課程教育の目的・目標を、「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)」及び「教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)」等を踏まえて設定し、大学として養成したい教員像について、入学時や各学年の履修ガイダンス時等において、教職課程教育の目的・目標とともに学生に周知している。

[長所・特色]

1・2年次に教育の基礎的理解に関する科目等を配置することで、4年間の見通しをもった教職課程の学修を担保している。授業では体験活動を重視している。全学的に取り入れている「学校支援ボランティア」では、教育現場に触れる活動を提供している点も特色である。教員としての資質の向上を意識する科目として「教育実践学(青年教師塾)」がある。この科目では、年間を通して複数回教育現場を体験し、理論科目や実践科目(教育法)、実習科目との有機的関連を把握できるようにしている。また、年間12回程度開催される教職課程委員会及び各学科会議では、教職課程運営上の課題や実習に関する情報共有を行うなど、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

(2) 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

[状況説明]

教職課程の授業の質の向上としては、授業担当教員の配置に工夫をしている。高度な専門性を持つ者、官公庁や企業等で実務経験を重ね研究活動を進めてきた者、教育現場で実務経験を積み重ねてきた者(実務家教員)で、適正な教職課程を編成している。その中においても、実践的な教育力・指導力の育成が必要な科目には実務家教員を充てている。

教職課程委員会は、委員長のもとに、学科から選出された2名の専任教員と通信教育課程担当教員から1名、教務課職員1名で組織し、教育職員免許課程や保育士養成課程の時間割編成、履修登録に関する指導や免許申請業務に加えて、各種の実習を円滑に実施していくために教育委員会や保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の実習校・実習施設との諸連絡・調整をはかる。

一方、各種資格取得希望者のための学習相談・支援については、経験豊富な実務家教員が適切なアドバイスを提供し、また実習校への事前・事後の学校並びに施設訪問や研究授業の際には実習担当教員が出向く等の十分な指導體制を構築している。

また、教育実習ガイダンス、教育実習事前説明会、介護等体験ガイダンス等を教職課程委員会と教務課が連携して実施している。

[長所・特色]

本学では、教員志望の学生たちに教員としての使命感や責任感を自覚させるとともに、教育実習、施設実習、保育実習等を円滑に推進するため各実習現場と大学との連携を図ることを目的とする「教職支援室」を設置している。また、知識の向上と実践力の強化を図ることができるように教員を目指す学生にとっての登竜門となる教員採用試験の対策講座を実施し、試験の傾向と対策や面接指導等を徹底して行うものとする。その他、地域の学校現場のイベント等に学生を積極的に参加させることでボランティア精神の育成にも取り組み、地域の教育振興にも貢献していく。

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保

[状況説明]

本学における教職課程で学修し免許を取得するに適した学生像を「入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)」としてホームページ、パンフレット等に明示するとともに、オープンキャンパス等においても周知している。在学生を対象とした人材の確保に関しては、各学年の履修オリエンテーション(前期・後期)において教職に関するガイダンスを実施している。さらに、教職希望学生にはメンター・ゼミ担当者による個別面談を実施し、科目の履修登録をはじめとする4年次までの計画や、履修上の注意点について説明をしている。継続的な履修フォローや面談等を通して、総合的に教職課程履修を開始・継続可能かを判断し、教員免許取得と将来教員となる意思のある学生のモチベーションの維持・向上を図っている。

[長所・特色]

本学では、1年生及び2年生に対して、学生生活や学業へのアドバイザーとして、メンター制度を導入している。各メンターは最大で25人程度の学生を担当し、教職希望学生の学修状況や生活状況を把握し、必要な情報の伝達や学業への動機づけを行っている。

3年次と4年次は、少人数によるゼミナール指導を行い、ゼミ担当教員がメンターと同様の役割を果たすとともに、教職希望学生の卒業研究や就職活動の指導(採用試験対策を含む)を行っている。

(2) 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

[状況説明]

教職支援室では教職を志望する学生に対し、教員としての使命感や責任感を自覚させるとともに、今日の教員に求められる専門的な知識の習得や指導力の向上を図ることができるよう、教学と実践の両面から丁寧な指導と支援を行っている。

課外講座として、3年生、4年生を対象に教員採用試験対策講座を行っている。「夏期対策講座」には卒業生の参加も可能にしている。大学推薦候補者については、4月から週2回、個別指導を含む対策講座を行っている。

さらに、教員志望が強く一定の基礎学力を有している学生を対象とした勉強会「大志会」を設け、対策講座や自主勉強会などを行っている。3年生からは「一般教養」「教職教養」「教職専門」の対策講座や自主勉強会、教員採用試験模擬試験などを行い、採用試験突破に向けて実践力の育成と意欲の向上を図っている。

これらに加えて、教師としての実践的指導力を育成するため、地元自治体(岡山市、赤磐市)と連携し、学校支援ボランティアの募集や配置を行い、希望者を対象に週1回、大学周辺の小・中学校等で学習支援や生活指導の補助などの実体験をしている。4月から教壇に立つ4年生には教職実践演習と関連させ、「教職実践ボランティア」として週2回のボランティアを課し、教員になるためにより多くの実体験を積むことができるようにしている。

意欲がある教職志望の学生は、早朝から深夜まで静かな環境で勉強に集中できる学生自習室「創志学館」の利用頻度も高い。

所管業務は以下のとおりである。

- ①教職課程や保育士養成課程のカリキュラム編成、改善に関すること。
- ②教育実習や保育実習の円滑な実施のための連絡・調整・指導に関すること。
- ③教員採用試験対策講座の企画・運営に関すること。
- ④各種教職資格取得者のための学習相談・支援に関すること。
- ⑤教員免許・保育士資格申請手続き業務全般に関すること。

[長所・特色]

教育課程外におけるキャリア教育の推進体制として、「教職支援室(小中高分室、幼保施設等分室)」を設置している。

教職支援室では教職を志望する学生に対し、教員としての使命感や責任感を自覚させるとともに、今日の教員に求められる専門的な知識の習得や指導力の向上を図ることができるよう、教学と実践の両面から丁寧な指導と支援を行っている。

授業としては、3年生の前期・後期を通して「キャリアデザイン」の授業を、4年生の前期には「キャリアサポート」の授業を行っている。3年生の「キャリアデザイン」では、前期から教職志望者に特化した内容で授業を行い、教育現場の実態や教育課題を踏まえ、教師として必要な資質や能力、指導法等

について学習を進めている。4年生の「キャリアサポート」では、面接や模擬授業、論作文などの指導を通して、教師としての考え方や自己表現力などを養い、採用試験のバックアップを行っている。

また、課外講座として、3年生、4年生を対象に教員採用試験対策講座を行っている。3年生の後期には、「教職教養」「模擬授業」「論作文」の対策講座を、4年生の前期には「面接」「模擬授業」「論作文」の対策講座をそれぞれ週1回ずつ行い、「キャリアデザイン」や「キャリアサポート」の授業と連動して学習を進めている。夏季休業中には、土日を除く毎日、各自治体の二次試験突破に向けての対策講座を行い、大学推薦候補者については、別途4年生の4月から週2回、個別指導を含む対策講座を行っている。

さらに、教員志願が強く一定の基礎学力を有している学生を対象とした勉強会「大志会」を設け、対策講座や自主勉強会などを行っている。2年生の後期には、大志会特別コースによる基礎学力の養成、3年生からは「一般教養」「教職教養」「教職専門」の対策講座や自主勉強会、対策合宿、教員採用試験模擬試験などを行い、採用試験突破に向けて実践力の育成と意欲の向上を図っている。

これらに加えて、教師としての実践的指導力を育成するため、岡山市、赤磐市と連携し、学校支援ボランティアの募集や配置を行い、希望者を対象に週1回、大学周辺の小・中学校等で学習支援や生活指導の補助などを行うことができるようにしている。

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

[状況説明]

教職課程を設置している学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを踏まえ、教職関連科目とそれ以外の学科専門科目等との系統性・関連性の担保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程のカリキュラムを編成している。シラバスにおいても、各科目の学修内容や評価方法を明確に示している。「教職実践演習」履修前には、履修カルテを用いてそれまでの学修と自身の取組を振り返り、学修を進めることができるようにしている。また、教育実習については、教育実習の依頼の時点で、学内規程である教育実習履修要件の確認と、教育実習に関する事前指導と手続に関する説明等を開始している。

[長所・特色]

教職課程履修学生のポートフォリオとして、「履修カルテ」を作成し、履修科目や各種授業での学修状況、インターンシップ(教育実習)などの参加状況などの記載を求めている。これにより、教職への適性や資質を含めた学生個々人の学修状況を把握し、きめ細やかな指導を行っている。四年にわたり積み重ねながら作成された「履修カルテ」を踏まえ、教職の総まとめと位置づける「保育・教職実践演習(幼稚園)」「教職実践演習(小学校・中学校・高等学校)」において、履修者に教職課程の振り返り

を行うと同時に、教職の適性を判断し、免許発行の見極めを行っている。

また本学では、教職課程の運営を通じて近隣自治体との連携・協力を進め、教員養成の質の向上に役立っている。近隣の市町村自治体とは、インターンシップやボランティアの派遣・受け入れの関係のみならず、自治体の教員研修への講師派遣についても協力を進めている。同時に「教員免許状更新講習」も平成 21(2009)年度より毎年度実施していた。

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

[状況説明]

本学の FD 活動は、FD 実施推進委員会によって規定・運営されている。教授方法の改善に限らず、学内の問題や課題、学修成果の点検・評価の結果を共有し、教職協働の場を提供している。特に教職課程担当教員においては、文部科学省が示す中央教育審議会答申や教員養成関係団体等で示される実践的指導力育成の重要性が共有され、各免許種において関係諸機関等の地域との連携によって実践的指導力育成を図っている。

[長所・特色]

教職課程を設置する学科においては、教職志望学生に対する実践的指導力育成を図っている。

具体的には、本学の教育課程では、豊かな人間性、幅広い教養、基礎的学習能力、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション能力、異文化理解力を身に付けることを目的に、教育的知識や技能に加えて、豊かな人間性やコミュニケーション能力を身に付けるために多様な科目を履修し、講義、演習や実習、アクティブ・ラーニング、PBL、ICT の活用などにより効果的に学修を深める教育課程を編成している。

平成 27 年(2015 年)度からは「特別支援教育論」の科目を正課内に配置して、教員を目指す学生に対して特別支援教育の学修の機会を提供してきた。同科目は「旧教科又は教職に関する科目」としても設定していたため、小学校教諭と中学校・高等学校教諭免許取得を希望する学生には率先して修得を促してきた。加えて、教育研究活動の一環として、正課内に「学校支援ボランティア」科目を設定し、岡山市及び赤磐市を中心に年間約 180 名の学生が、本学近隣の学校園・特別支援学校にて以下の活動を実施して、学校種を横断した幅広い現場体験を継続している。

(1) 教育活動支援

- ・各教科、総合的な学習の時間などの指導補助
(授業補助、保育補助、得意分野での指導、体験談、講話、読書の指導 等)
- ・学校園の行事、部活動の指導
(スポーツ指導、文化的指導活動、音楽活動、体験活動 等)
- ・子どもたちの学習活動や学校生活の補助
- ・特別に支援を要する子どものサポート 等

(2) 環境整備支援

- ・花作り、校舎等の修理、窓ガラス清掃、草刈り、植木剪定 等

・各種標示札作成 等

(3)学校安全支援

・登下校時の付き添い、校門でのあいさつ運動 等

また、近隣の岡山東支援学校、岡山瀬戸高等支援学校と包括連携協定を締結し、本学において同校の生徒が実習を実施している。本学の学生も授業の一環として同校にて学外授業を展開している。

Ⅲ. 今後の教職課程教育・運営の課題

現在、我が国が抱える教育課題は「資質・能力の向上」と「地方への人材供給」である。その2点に対して、今後、次のような活動を強化していく予定である。

1 質の高い教員養成

(1) 多様な学びの機会提供

生徒指導、学校経営、地域連携など、幅広い知識とスキルを習得できるカリキュラム編成

(2) 実践的な教育

教職インターンシップ、アウトリーチ活動、新たに導入された科目(例:道徳、外国語活動、総合的な学習の時間等)の模擬授業など、実際の教育現場で経験を積める機会の積極的な設定

(3) 教員免許状取得者数の増加

幼稚園、小学校、中高体育、中高英語、中高数学、特別支援

2 地域社会との連携強化

(1) 地域の小中高等学校との連携

現職の教員との交流、教育現場での課題解決に向けた共同研究

(2) 地域住民との連携

地域の教育に関する課題の共有、地域全体による子どもたちの成長の支援

(3) 産官学連携

教育の質向上に繋がる新たな取り組みを推進するための地域の企業や行政機関との連携

3. 多様な学生の受け入れと支援:

(1) 経済的支援

奨学金制度の充実、経済的な理由で教職を諦めざるを得ない学生への支援策の検討

(2) 多様なバックグラウンドを持つ学生への支援

国際学生、障がいのある学生など、多様な学生が安心して学ぶことができる環境の整備

(3) キャリア支援

卒業後の進路選択の支援、教員以外の多様なキャリアパスの提示

4. 授業や情報公開等を通しての教職の魅力アップ

(1) 教師の仕事の魅力の発信

(2) 教員採用試験の多様化への対応

(3) 地域社会で活躍する卒業生の情報公開

現状基礎データ票

令和4年5月1日現在

設置者 学校法人創志学園					
大学・学部名称 環太平洋大学					
1 卒業生数、教員免許取得者数、教員採用者数等 《通学課程》					
1	令和3年度卒業生数				704名
2	1のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)				648名
3	1のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)				496名
4	2のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)				114名
4のうち、正規採用者数					72名
4のうち、臨時的任用者数					42名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他()
教員数	43名	25名	37名	17名	
相談員・支援員など専門職員数					